

ちょっとだけ!!
フライングディスク
将来構想会議
2020

将来構想メモvol.16(2021/01/12)

Flying Disc Times
presents

<ゲストプロフィール>

大平航暉(おおひらこうき)

活動拠点:関西

所属:大阪市立大学颯和

関わり方:プレイヤー

柴田菜生(しばたなお)

活動拠点:関西

所属:大阪市立大学颯和

関わり方:プレイヤー

<颯和創設理由>

大平さん

- 大学進学時に今まで続けていたテニスをやめ、中学の体育の授業で楽しかったアルティメットを始めたいと思い、大学内にチームがなかったので創設。
- アルティメットというスポーツの枠にとどまらず、ボランティアの魅力を発信したい思いから「社会貢献」との掛け合わせを決意
→小中の経験を踏まえ、「スポーツ×社会貢献」の形でチーム作りを行った

柴田さん

- 人間福祉学科という学部から子ども食堂やボランティア関係の活動もしている点と運動ができる点に惹かれて入部。

<創設して良かったこと>

- ボランティアのサークルを立ち上げるだけでなくスポーツとのかけ算を行う
 - ボランティアは大きく分けて2軸
 - 1)子ども向けの支援活動
 - ex.)ドッチビー大会の運営、地域のお祭りでディスクの的当てなど
 - 2)地域の清掃活動
- フライングディスクと関わりがあるものとなないものなど活動は幅広い
- 多様な人を巻き込み新しいコミュニティを作れた

<達成出来なかったこと・課題>

- アルティメットとボランティアをやりたい人での「思いの乖離」
- 人数が増えるとそれぞれのメンバーが持つ思いが増える
- アルティメットへの競技志向が高い人ほどボランティアへの興味が薄れたり
- 「身体を動かしたい」という人が練習のレベルの高さについて行けず参加しなくなってくる。

<考えている解決策>

- 男女が一緒にプレーする環境をつくる
 - 女子としての意見:体格差と足の速さは男子に負けてしまう点を戦略でカバーする
 - ルールや制限の設定=女子:差を埋めるメリット
男子:頭を使って競技に取り組むメリット
 - Joy of Playの思いを考え直す
 - 自分の中でも整理するし、仲間とも共有する。
このコミュニティになにを求めていくか=人によって求めることも異なる
自分自身の存在意義を明確化する=場面ごとの役割
 - 全員が求めていることを達成するには意見交換が大事=意見交換の場をセッティングする
- ★違いを認める、共有する

<考えている解決策>

● フライングディスクと何をかけ算するか

1) 都道府県協会×大学生

= 運営イベントのスタッフ&チーム登録費負担

2) フライングディスクプレイヤー×子ども

= 若い頃からFDに触れる機会を増やしていく:指導

= セカンドスポーツとしてのフライングディスク

他スポーツのオフシーズンに導入する

3) フライングディスク×地域

= 物産、現地職員、他のスポーツ団体など地域に根付いた場所からアプローチ

= 地域おこし、地域に根を張る

参加者写真

担当メンバー: 後藤 大輝



- 参加していただいた大阪市立大学颯和のご紹介
 - 2017年4月13日に設立 大学公認サークル
 - 現在4学年で108名所属(男女比6:4)
 - 2019年JFDAの公式戦に初出場(オープン)
 - 「大学を代表する団体になる」を理念に掲げ(2020年より)活動中
 - 活動内容:アルティメット・子ども食堂サポート・ドッチビー大会主催・国際交流・地域のお祭り出店・清掃活動
 - 大阪市立大学颯和公式Twitterアカウント: @ocult
<https://twitter.com/ocult?s=20>